

(3) 持続可能な社会の実現に向けた取組

① 食べ物や身の回りの物から考えてみよう

^{わたし}私たちが使ったり食べたりしている物は、世界のさまざまな国でつくられています。

そのため、物の背景には遠くの国の自然やくらしの問題が関わっていることを意識することが大切です。

② 環境保護や生産者の自立など、様々な認証制度があります

環境保護や生産者の自立を応援するために、さまざまな^{にんしゅう}認証制度があります。

例えば「レインフォレスト・アライアンス認証」は、自然環境を守りながら、農業に関わる人々の生活も大切にしておつくりされた商品につけられます。このような認証マークがある商品を選ぶことは、人々のくらしと地球の自然の両方を守ることに繋がります。

レインフォレスト・アライアンスマーク

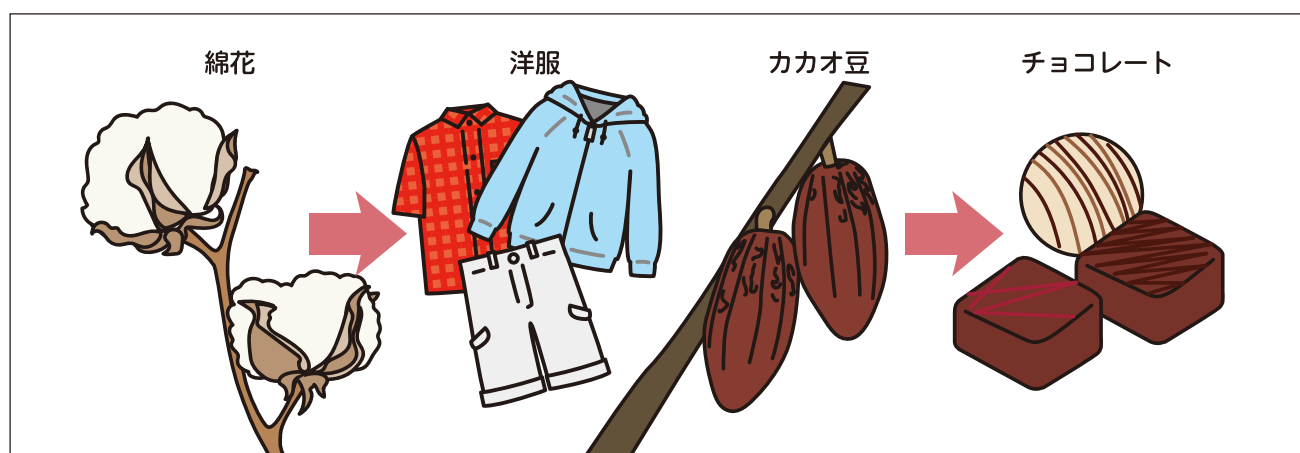


レインフォレスト・アライアンス以外にも様々な認証制度があります。自然環境を守ることと同様に重要な、生産者の生活を守る取組の認証制度として「フェアトレード」があります。

③ フェアトレードとは？

フェアトレードとは、生産者が正当な対価を得られるように、公正な取引を行う取り組みです。

綿やカカオなど、私たちが利用する多くの原料が、海外で生活を支える人々によって生産されています。



フェアトレード^{にんしやう}認証マーク（2種類）



フェアトレードでは、①適正価格の保証、②発展^{はってん}のための資金の上乗せ、③代金の前払い^{ばら}、④長期的な取引などを約束します。このような取引をすることで、生産者は安定した仕事を得られるようになります。生活の質が上がり、環境に配慮^{はいりよ}した生産をすることもできるようになります。

④わたしたちにできること

地球規模^{ききぼ}での環境問題を解決しながら、地球上で生活するあらゆる人たちの生活環境を改善^{かいぜん}することで、持続可能な社会が実現します。私たちは、普段^{ふだん}の生活の中で、環境や社会に配慮した商品を買うことで、持続可能な社会の実現^{じつげん}に貢献^{こうけん}することができます。



コラム：札幌市は日本で5番目のフェアトレードタウン

市民や企業^{きぎやう}、学校、行政機関などが一体となって、みんなでフェアトレードに取り組んでいるまちを、フェアトレードタウンと言います。

フェアトレードタウンはイギリスで始まった制度で、世界中で約2,000都市が認定されています。フェアトレードタウンになるためには、①フェアトレードを進める組織がある、②フェアトレードを広めるための運動が行われている、③まちにフェアトレードが浸透^{しんとう}している、④フェアトレードによって、まちが盛り上がり^も上がっている、⑤フェアトレードの商品を扱う店がたくさんある、⑥市長や議会がフェアトレードを認めている、と

いう6つの条件を満たしている必要があり、札幌市は2019年6月に日本で5番目のフェアトレードタウンに認定されています。



フェアトレードタウン認定式

ち きゅう
地球のために
できること

